

修士論文執筆要領

2010年5月 地球市民学専攻

修士論文は、下記の要領で執筆し、決められた提出要領にしたがって、締め切り日時までに確実に提出すること。

用紙サイズ：英語の場合も日本語の場合も A4 版横書きとする。

字数：英語の場合は 12000 words or more, A4, Double Space（図表、絵・写真、文献・資料リストなどを除く）で書くこと。

日本語の場合は、40000 字以上（図表、絵・写真、文献・資料リストなどは除いて字数を数えること）。ワープロで A4 用紙 1 ページに 40 字 30 行で印刷すること。

書き方：

1) テーマは題目届けのものを原則として変えないこと（変更がある場合は指導教員と相談すること）。

2) 内部の構成は、問題意識、仮説、サーベイ（研究・調査：文献・資料サーベイ、フィールド・サーベイ）、サーベイ内容、分析、発見、結論、の順番でも良いが、できるだけもっと内容を表すものを考えてみること。

例（カッコのなかは省略しても良い。各章の内部は内容に応じて適当に節に分ける）：

地球市民の新しい課題：NGO「〇〇」の活動をとおして（テーマ）

第1章 なぜNGOを取り上げるか？（問題意識）

第2章 日本のNGOは壁に直面している？（仮説）

第3章 NGO「〇〇」の結成とその後の活動（文献・資料のサーベイから）

第4章 日本におけるNGOと一般市民との関係：活動家たちの事例

（面接調査、フィールド・サーベイの結果から）

第5章 活動が広がらない原因：NGOの側と一般市民の側（分析）

第6章 NGOと市民のあいだのコミュニケーション・ギャップ（発見）

第7章 インターネットの効果的な利用と対人接触の重要性（結論）

3) 文献・資料や人の話などからの引用は、必要最小限度でとどめ、「」でくくって引用であることを明示すること。人の意見を自分の意見であるかのように主張してはならない。

4) 引用や言及を示す注は、（国境なき医師団, 2009.4.17）、（庄司編著, 2009, p.90）、（庄司, 200, P16）、（Hardt & Negri, 2000=2003, pp.200-2003）などの形で文中に挿入すればよい。そのために、下記にしたがって文献リストをきちんと作っておく。最後の例は、ハートとネグリの本の原著が 2000 年に、翻訳が 2003 年に出ていて、翻訳の 200-2003 ペ

ージに言及箇所があることを示す。

5) それ以上の注は脚注として各ページの下に入れること。読む立場からしても、それがもっとも読みやすい。

6) 最後に必ず文献・資料・ホームページリストを掲げること。リストは以下の要領によって作ること。日頃からこの方式で文献・資料・ホームページを蓄積しておけば、論文の最後に付ける際にもそのまま利用できる。

文献・資料・ホームページの挙げ方（リストの作り方）

（ホームページの場合はいきなり [http...](#) を書かず、必ずページの著者と最近の更新日およびタイトルを掲げること。更新日が分からない場合には見た日付を掲げる。順番は、著者の姓で日本語アイウ順、英語 ABC 順にする。表記も必ず姓を先に出すこと。下記参照。）

アムネスティ・インターナショナル日本, 2009.4.17, 「アムネスティについて他」
<http://www.amnesty.or.jp>

国境なき医師団, 2009.4.17 「国境なき医師団とは、他」 <http://www.wsf.or.jp/index2php>
庄司興吉編著, 2009, 『地球市民学を創る：地球社会の危機と変革のなかで』 東信堂。

庄司興吉, 2008, 「現代社会論としての地球社会論：その必要性・輪郭・課題」『社会学評論』 59-1, 日本社会学会、pp.37-56。

Hardt, M. & Negri, A., 2000, *Empire*, Harvard University Press. (ネグリ・ハート、水島一憲他訳, 2003, 『〈帝国〉：グローバル化の世界秩序とマルチチュードの可能性』 以文社)

Shoji, K., 2009, 'Citizens' Sociology in the Age of Crises and Changes, *Bulletin of Seisen University*, 57, Seisen University, Tokyo.